



食料価格高騰によって最も大きな打撃を受ける最貧層は、収入の75%を食料に充てている ©REUTERS/Daniel Aguilar

世界の食料価格、史上最高値に 1月に3.4%の上昇——FAOが食料価格指数を更新

世界の食料価格を定期的にモニタリングしているFAOの食料価格指数によると、世界の食料価格は7ヵ月連続で上昇し、1月には史上最高値に達しました。1月の平均値は前月より3.4%増の231ポイントとなり、FAOが食料価格の測定を開始した1990年以降、実質・名目ベースともに最高水準となっています。2007-2008年に起こった食料危機では、例えば食料生産余剰国による輸出規制など、危機の影響を緩和するために政府が急いで行った決定が、実際には危機を悪化させた経験がありました。そのためFAOは各国政府に対し、状況を注意深く分析し、短期的には有用とみえても長期的には悪影響をもたらすような政策対応を採らないよう呼びかけています。ガイドラインはまた、価格上昇が低所得食料不足国に大

きな打撃を与えていることを強調しています。大半が穀物の総輸入国であるアフリカ諸国を含め、これらの国の多くは、食料価格が高騰すると食料輸入代金の支払いが増加するからです。ガイドラインは、すべてに適用される解決策はないとしながらも、既存の市場を弱めるような対策は採択しないよう呼びかけています。(1/26、2/3、ローマ)

関連ウェブサイト

Food Price Index : www.fao.org/worldfoodsituation/FoodPrices/Index
Policy guide for countries hit hard by high food prices : www.fao.org/news/story/en/item/49954/icode/
Initiative on Soaring Food Prices : www.fao.org/isfp/isfp-home/en/
FAO日本事務所プレスリリース：世界の食料価格は史上最高値を更新：
www.fao.or.jp/media/press_110203.pdf
FAO日本事務所プレスリリース：食料価格上昇によって大きな打撃を受ける諸国のための政策指針：www.fao.or.jp/media/press_111027.pdf

Contents

Top -----

世界の食料価格、
史上最高値に

Articles -----

国際森林年がスタート

韓国での口蹄疫が
地域的リスクとなる兆し

水産物消費量が史上最高に

ニジェールの栄養不良

不平等に直面する農村女性

Perspectives ---

今月の視点

ゼロ・ハンガー・
ネットワーク・ジャパン

Activities -----

関連イベント

出版物

Info -----

今後の主な活動予定

テレフォード募金にご協力を

メールニュース配信のお知らせ

FAO 寄託図書館のご案内

本紙発行終了のお知らせ

FAO
Newsletter

Mar. 2011
vol.60

国際森林年がスタート ——森林セクターに革新的な行動を求める

FAOは、世界の森林と林業に関する隔年の報告書「State of the World's Forests 2011」を発表しました。国連が定めた「国際森林年」に当たる今年の報告書は、森林の持つ役割が一般に過小評価されていることを強調しています。木材製品は、消費者から木が伐採されていることへの罪悪感を抱かれがちですが、むしろ天然素材と同じようにリサイクルが可能な再生資源です。また、森林業界は、廃材の利用を増やすなどして資源利用の持続性をさらに高めるための努力をしています。2010年には全木材製品の37%に再生紙や木質廃棄物、非木質繊維が利用されており、2030年には45%にまで伸びると見込まれています。

報告書はまた、昨年12月に合意されたREDD+（森林減少・劣化に由来する二酸化炭素の排出の削減）の取り組みに言及し、国レベルのREDD+戦略においては先住民や地元コミュニティの参加を確保するよう呼びかけています。（2/2、ニューヨーク/ローマ）

関連ウェブサイト

International Year of Forests 2011 : www.un.org/en/events/iyof2011/index.shtml
UN-REDD Programme : www.un-redd.org
FAO Forestry Department : www.fao.org/forestry
FAO日本事務所プレスリリース：国際森林年がスタート：国連が森林セクターに革新的な行動を求める： www.fao.or.jp/media/press_110202.pdf

多くの人々が、水や食料、新鮮な空気、住まいを森林に求めている ©FAO / Giulio Napolitano

韓国での口蹄疫が 地域的リスクとなる兆し

昨年11月下旬から韓国に広がっている口蹄疫の被害を背景に、FAOはアジア地域の獣医・国境検疫当局に対し、感染の兆候を示す動物への警戒を呼びかけました。口蹄疫は、人体に直接の害はありませんが、感染した動物は労働力として使うことはできず、ミルクを売ることもできなくなります。FAOの専門家は、特に口蹄疫発生のピークには、疾病の伝染を防ぐとともに漸進的な疾病除去を目的とする緊急ワクチン接種がカギとなると述べています。（1/27、ローマ/バンコク）

関連ウェブサイト

FAO's Emergency Centre for Transboundary Animal Disease Operations : www.fao.org/ag/againfo/programmes/en/empres/ah1n1/Ectad.html
FAO's Regional Office for Asia and the Pacific : www.fao.org/world/regional/rap/index.asp
FAO日本事務所プレスリリース：韓国での口蹄疫が地域的リスクとなる見通し : www.fao.or.jp/media/press_110127.pdf

水産物消費量が史上最高に ——漁業資源の状況には改善みられず

世界の漁業・養殖業に関するFAOの報告書「The State of World Fisheries and Aquaculture 2011」によると、世界の水産物消費量は一人当たり平均17kgという記録的な水準に達し、動物性たんぱく質供給量の平均15%を占めると発表しました。この増加は主に、漁獲量を上回る勢いで拡大している養殖生産の供給によるものです。

一方で、海面の漁業資源に目を向けると、過剰開発、枯渇、あるいは枯渇状況から回復しつつある資源は2006年から若干増加しており（全体の32%）、懸念すべき状況となっています。報告書は、漁業部門の管理を高め、過剰開発を削減するためにFAOが取り組んでいる、違法・無報告・無規制（IUU）漁業への対策を検証しています。取り組みのひとつとして、漁船の登録制度に関する討議が進んでおり、IUU漁業の取り締まりに効果をもたらすと期待されています。（1/31、ローマ）

関連ウェブサイト

Fisheries and Aquaculture Department : www.fao.org/fishery
Committee on Fisheries : www.fao.org/cofi/cofi2011
FAO日本事務所プレスリリース：水産物消費が史上最高に達す : www.fao.or.jp/media/press_110131.pdf

水産物の需要の高まりによって、水産資源の持続的管理の必要性も高まっている

©FAO / Giulio Napolitano





ニジェールの栄養不良

—FAOとWFPが支援を呼びかけ

FAOとWFPの報告によると、西アフリカのニジェールでは、収穫が良好であるにもかかわらず栄養不良が深刻となっています。ニジェール政府は昨年、国連の支援のもと、干ばつの影響を受けた700万人の食料・栄養危機を防ぐための支援を開始しました。その結果、2010年の雨季のシーズンが良好だったこともあり、国内の穀物生産は60%増加しました。しかし依然として、健康管理の手段が乏しいことや極度の貧困が原因で、昨年10月と11月の時点で15%が深刻な栄養不良に直面しています。FAOとWFPは、遊牧民に向けた家畜の補填やシーズン外の農業生産支援のほか、国の穀物在庫の立て直しやマーケットチェーンの支援、さらに栄養不良の人々に対する給食センターの継続支援を呼びかけています。(1/20、ローマ)

関連ウェブサイト

Niger press release 2010 : www.fao.org/news/story/en/item/41388/icode
FAO Global Information and Early Warning System on Food and Agriculture : www.fao.org/giews/english/index.htm
UN Central Emergency Response Fund : <http://ochaonline.un.org/Default.aspx?alias=ochaonline.un.org/cerf>

FAOとWFPは、ニジェールの子どもたちがよりよい未来と向き合う助けをする ©FAO / Giulio Napolitano

不平等に直面する農村女性

—政策改善を求める国連の報告書

FAOが農業開発基金 (IFAD)、国際労働機関 (ILO) とともに発表した報告書によると、女性は世界的に、農村雇用において男性よりも不利益を被っている傾向があるうえ、昨今の金融・食料危機によって平等化の進展が遅れています。特に女性が世帯主の世帯では、失業に加え、社会サービスやインフラへの支出がカットされたことにより、女性の家庭内ケアの負担や無賃金労働が増えています。法律や社会的セーフティネットの整備に加え、農民や女性、青少年を対象とした支援組織のサポート、さらには教育、情報、労働市場へのアクセスの改善が求められています。(1/21、ローマ/ジュネーブ)
※ 報告書の一部を季刊誌「世界の農林水産」2011年春号に掲載予定

関連ウェブサイト

FAO Gender : www.fao.org/gender
Women and Rural Employment : Fighting poverty by redefining gender roles : www.fao.org/economic/es-policybriefs/briefs-detail/en/?no_cache=1&uid=29511
IFAD : www.ifad.org
ILO : www.ilo.org

今月の視点

ゼロ・ハンガー・ネットワーク・ジャパン

FAO日本事務所では、世界から飢餓と栄養不良をなくすためのネットワークづくりの検討を進めてきましたが、まもなく、飢餓・栄養不良をなくすための国内連帯 (AAHM) の日本版として、「ゼロ・ハンガー・ネットワーク・ジャパン」が設立される予定です。このネットワークは、緩やかな連携の仕組みで、参加団体等のそれぞれの活動の相乗効果の発現を図りながら、世界の食料安全保障の改善に一層貢献していくことを目的としています。

活動内容としては、(1)ウェブサイトによる情報共有、一般市民への情報発信、(2)開発途上国支援、(3)セミナーなどの共同イベントの実施、(4)学校等と連携した開発教育への参画、(5)飢餓・栄養不良問題に関連する国内活動、(6)FAO世界食料安全保障委員会 (CFS) への参加などを予定しています。

日本国内において、飢餓・栄養不良をなくすため、様々な団体、企業等が活動を行っていることと思います。「ゼロ・ハンガー・ネットワーク」に参加し、様々な人々とつながることにより、新しい可能性が見えてくるのではないのでしょうか。参加団体等を募集していますので、ご関心のある方は、ゼロ・ハンガー・ネットワーク・ジャパン事務局 (FAO日本事務所内) までお問い合わせ下さい。

(FAO日本事務所長 横山 光弘)

関連ウェブサイト : www.fao.or.jp/media/ZeroHungerNetworkOutline_Feb2011.pdf

Activities

関連イベント

2月11-12日、「よこはま国際フォーラム2011」がJICA横浜で開催されました。横浜で国際協力・国際交流・在住外国人支援に取り組むNGO/NPO、行政、国際機関、学校、企業等のネットワークである、よこはま国際協力・国際交流プラットフォームが主催し、セミナーやワークショップなど2日間に37のプログラムが行われました。11日にはFAO日本事務所の松田次長がセミナー講演を行い、世界の食料・農業の現状とFAOの役割について紹介しました。参加者からは、最近の食料価格の上昇の原因についての質問や穀物がバイオ燃料の原料として使われ、食料としての穀物が不足するようになるのは問題ではないかとの意見が出されるなど、熱心な質疑応答が交わされ、参加者の食料問題に対する関心の高さがうかがえました。

関連ウェブサイト

よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム：http://yokohama-c-plat.org



講演する松田次長 ©FAO/LOJ

出版物

開発途上国では近年、食料を中心とした農産物の輸入が急増しています。FAOは、その要因と影響を分析し、各国の政策対応に関する提言をまとめた報告書「Agricultural import surges in developing countries (開発途上国における農産物輸入の急増)」を発表しました。アフリカやコートジボワール、ガーナ、ホンジュラスを

はじめとする11カ国のケーススタディも含まれています。FAO 寄託図書館で閲覧が可能です。



今後の主な活動予定

2011.3.8

国連公開シンポジウム
「国際女性の日2011国連公開シンポジウム
女性が地球を元気にする」

グローバルトーク

「私の職場は地球 ―世界に出てみよう―」

白木夏子氏 (HASUNA Co.,Ltd. 代表取締役)

津坂美樹氏 (ポストコンサルティンググループ東京事務所
シニア・パートナー)

熨斗麻起子氏 (可宝得環境技術有限公司総経理)

モデレーター 山脇岳志氏 (朝日新聞社 GLOBE 編集長)

ドリームトーク

「夢をかなえる ―宇宙へ、家族とともに―」

宇宙飛行士 山崎直子、大地夫妻

聞き手 浜田敬子氏 (朝日新聞出版「AERA」副編集長)

ビデオメッセージ

潘基文国連事務総長

ミチエール・バチレレ UN Women 事務局長

総司会

山下真理国連広報センター (UNIC 東京) 所長

場所：東京・有楽町朝日ホール

主催：駐日国際連合諸機関 (FAO 日本事務所ほか)

朝日新聞社

URL：www.jimukyoku-net.jp/femmes-tokyo/
kj2011.html

2011.3.10

セミナー「食料安全保障の強化のための
制約と機会」

講師：Shivaji Pandey 氏

(FAO 農業・消費者保護局 植物生産・防疫部長)

場所：東京・TKP 銀座ビジネスセンター 8F

カンファレンス 8C

主催：JAICAF

共催：FAO 日本事務所

テレフード募金にご協力を

募金は、アジアやアフリカの食料不足の地域で、貧困農民の食料増産を支援する「テレフード・プロジェクト」に使用されます。

※ 振替手数料無料。ご寄付は税金控除の対象となります。

郵便振替口座

00140-1-29732

FAO 飢餓撲滅草の根募金



メールニュース配信のお知らせ

FAO 日本事務所では、FAO に関する各種情報を Eメールで不定期に配信しています。ご希望の方は下記までご連絡ください。

FAO-Japan-Info@fao.org

FAO 寄託図書館のご案内

所在地

神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1

パシフィコ横浜 横浜国際協力センター 5 階

FAO 日本事務所内

利用予約および問い合わせ

TEL：045-226-3148

E-mail：fao-library@jaicaf.or.jp

開館時間

平日 10：00-12：30、13：30-17：00

本紙発行終了のお知らせ

本紙「FAO Newsletter」は今号をもって発行を終了いたします。バックナンバーをご希望の方は、JAICAF までお問い合わせください。

発行：(社) 国際農林業協働協会 (JAICAF)

〒107-0052

東京都港区赤坂 8-10-39 赤坂 KSA ビル 3 階

TEL：03-5772-7880

E-mail：fao@jaicaf.or.jp

URL：www.jaicaf.or.jp

共同編集：宮道 りか、Linda Yao (FAO 日本事務所)

森 麻衣子 (JAICAF)

デザイン：岩本 美奈子

News source：www.fao.org

この用紙は再生紙を使用しています

FAO
Newsletter

Mar. 2011

vol.60